

5. 地方からの便り

婦人消防隊による初期消火訓練

福島県 相馬地方広域消防本部



平成15年8月29日(金)原町で県総合防災訓練が行われ、消防本部や警察、地域住民ら約9,500人が参加しました。

訓練には県の消防防災ヘリコプターをはじめ、茨城県や岩手県、自衛隊などから8機のヘリコプターが参集しました。雲雀ヶ原祭場地の観覧席部分を林野に見立てた林野火災防御訓練では、ヘリが水や消火剤を散布する訓練が行われ、この様子をよつば幼稚園の園児約70人がそろいの幼年消防クラブの法被を着て、見学しました。

また、初期消火訓練において、原町婦人消防隊(星見徳子隊長以下9,936名)のうち19名により、地震によって倒壊家屋火災が発生という想定で、婦人消防隊の軽可搬ポンプ6台において燃焼家屋へ一斉放水訓練を行い、素晴らしい成果をあげました。

原町婦人消防隊では、他に救援物資輸送訓練などを行ったほか、自衛隊の協力を得て炊き出し訓練も実施しました。

参加者は訓練を通じて、いつやってくるか分からない災害に備え、防災体制を確認するなど意識を新たにしていました。

[▲ このページの上に戻る](#)

救急フェアIN大阪空港を開催

大阪府 豊中市消防本部

豊中市北消防署においては、「救急の日」及び「救急医療週間」行事の一環として、平成15年9月7日(日)に大阪国際空港南ターミナル屋上展望デッキ「ラ・ソーラ」において、「救急フェアIN大阪空港」を開催しました。

高齢化並びに社会環境の変化に伴い、救急需要は当市においても年々増加傾向にあり、多くの市民の方に正しい応急手当の方法を学んでいた





だくとともに、救急活動に対する市民の一層の理解と認識を深めていただくことを目的として、会場では心肺蘇生体験コーナー、救急車パーパークラフトコーナー、救急車ラジコンコーナー、救急資器材展示など多数のコーナーを開設しました。

大変厳しい残暑の中、応急手当の重要性等を市民に広くアピールし、千人を越す来場者で会場は大変賑わいました。

▲ [このページの上に戻る](#)

関西国際センターの研修生に救急講座を開催

大阪府 泉佐野市消防本部

「救急の日」の9月9日(火)に泉佐野市消防本部では、関西国際交流基金関西国際センターにおいて、4か月間の日程で日本語を習得するため来日した研修生23人を対象に救急講座を開催しました。

9月2・3日に来日した研修生で、5日に関西国際センターでのオリエンテーション終了後、同本部を訪れ、賀本消防長が歓迎挨拶をした後、4階の防災学習センターで、119番通報、地震、台風、火災時の煙から身を守る方法等を体験学習し、りんくう消防署に配置している最新鋭の高規格救急車の見学をしました。

そして、9月9日の救急の日には関西国際センターで、救急隊は、米国のパラメディック制度をモデルとした救急救命士を含む救急隊員3人で構成されている等、日本の救急体制についての講話や、救急車が来るまでに行わなければならない救命処置である心肺蘇生法について、訓練用人形を使った実技研修を受け、受講者には、救命講座修了証が交付されました。



講座を修了した研修生は、4ヶ月の滞在中に万が一事故にあった時のことを考えるととても有意義であった。もっと日本の文化に触れ、見聞を広めたいと話していました。

また、「救急医療週間」を契機に救急車の適正利用等救急業務を正しく理解して頂くことを目的とし、同本部が開設しているホームページに救急業務に関して市民から問い合わせがあった内容をまとめて、Q&A方式で解説するコーナーを設けました。

泉佐野市消防本部HP [●こちらをクリック●](#)

▲ [このページの上に戻る](#)

救急の日を前に一日救急隊長

島根県 雲南市消防本部

9月9日が救急の日、9月7日から13日が救急医療週間であることから、救命率向上を目指し、雲南市消防本部では、地域住民の一人でも多くの方に救命講習を受講していただき、いざという時役立てていただくことを目的に9月4日(木)「一日救急隊長行事」を実施しました。



一日救急隊長にはJA雲南職員の久村知恵さんが委嘱され、救急医療などについて理解を深めてもらうため、JA雲南玄関前で救急シュミレーションが行われました。



JA雲南職員など約40人が見守る中、高齢者が意識を失ったとの想定で、居合わせた救命講習受講者が心臓マッサージなど心肺蘇生法で応急手当をし、駆けつけた救急隊が救命措置をし、到着した救急車の救急救命士らに引き継がれました。

また、一日救急隊長の久村さんが「救急医療の必要性を理解し、普通救命講習会を計画して下さい」と呼び掛けました。JA雲南本所玄関や駅などでポスターの掲示とPR活動を行い、最後に、近隣の福祉施設職員らと普通救命講習を受け、応急手当の方法を学ばれていました。



郡上郡婦人防火クラブ研修会

愛知県 郡上広域連合消防本部

平成15年9月7日(日)日本まん真ん中センターにて、平成15年度郡上郡婦人防火クラブ研修会が実施されました。郡内の婦人防火クラブ員270名が参加いたしました。

武藤茂子会長のあいさつの後、郡上広域連合消防本部の署員が救急業務などをテーマに意見発表を行い、続いて、日置憲正中消防署長兼地震対策官が「地震と防災対策」と題して「2005年までの東海地震嚴重警戒期間」に備えて地震防災対策の重要性と、安全管理についての講演を実施しました。



普通救命講習モデル地域の活動について

熊本県 山鹿鹿本広域行政事務組合消防本部



平成15年9月9日・20日・23日の3日間に分けて、日本防火協会から交付を行った人体モデル(成人用・乳児用)及び応急手当講習テキスト等を活用して講習会が実施されました。

鹿本郡鹿北町の鹿北町婦人防火クラブは、当協会より普通救命講習のモデル地域に選定されており、鹿北町婦人防火クラブ員118名が受講し、全員が真剣に取り組んでいました。

第1回目は9月9日(火)の救急の日に鹿北町公民館において、18時より婦人防火クラブ員68名を対象に実施されました。

第2回目は9月20日

(土)13時から、婦人防火クラブ員31名を対象として、第3回目は、9月23日(祝)9時から、婦人防火クラブ員19名を対象として、鹿北町役場大会議室で実施されました。救急テキストにより説明がなされ、その後、実技指導が行われました。

なお、3時間の講習会修了者には普通救命講習修了証が交付されました。



防火音頭だ、予防だ、予防だ

宮城県 黒川地域行政事務組合消防本部

第25回黒川郡婦人防火クラブ研修会が平成15年9月21日(日)、富谷武道館で開催され、郡内4町村の会員約850人が「火災のないまちづくり」を誓い合いました。

全員で「家庭の防火管理者として、火事をださないように努めます。」という防火宣言を唱和し、記念講演では、元民法アナウンサー小島哲朗氏が「ことばつかい・心づかい」と題して講演を行いました。



研修会的一幕では、1980年に同クラブによって作られ、毎年、研修会で全員が合唱と踊りを披露して引き継いできた「婦人防火クラブ音頭」の歌とメロディーに合わせ、婦人防火クラブ員が法被姿で踊りを披露しました。

ステージの下で踊りを見るクラブ員は白いかっぽう着姿で、どこか懐かしさが漂う研修会は、昔も今も変わらない火災の怖さを確認するのに相応しいものでした。

